

京都の美しい景観保全と  
安心・安全な道路空間の創造

# 京都市の無電柱化



花見小路通

## 京都市





# 《 整備事例 》

着手前

完成後

幹線系

三条通



二年坂



(完成イメージ)

景観系

ねねの道



## 京都市の無電柱化

京都市建設局道路建設部道路計画課

京都市建設局道路建設部道路環境整備課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL. 075-222-3580

FAX. 075-213-0263

TEL. 075-222-3570

FAX. 075-213-0193

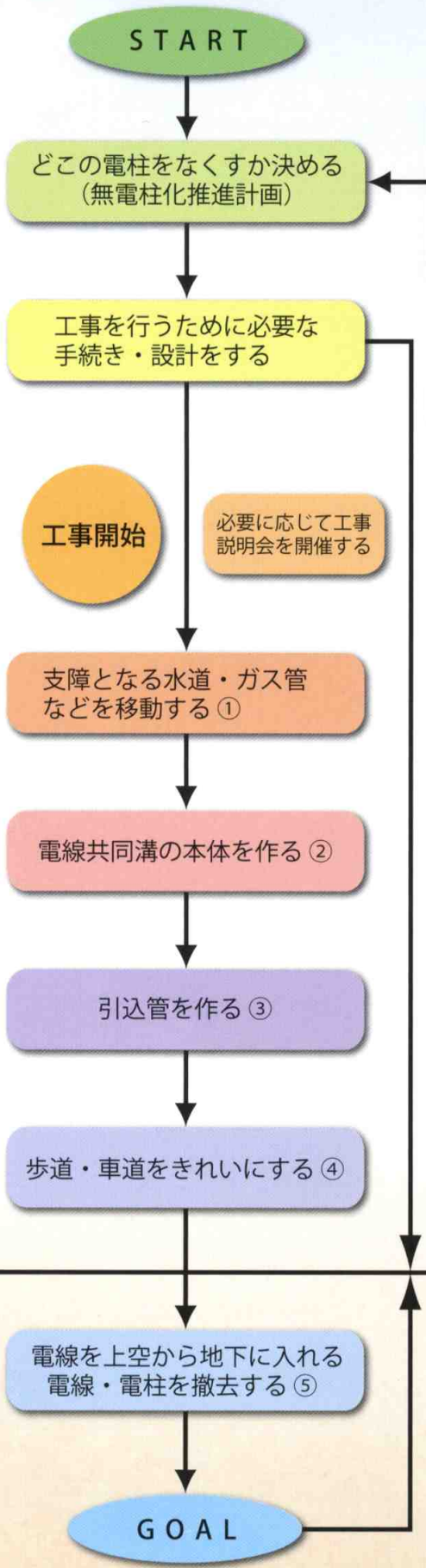


平成 21 年 5 月発行

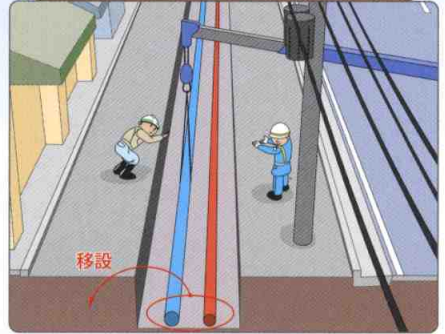
京都市印刷物 第214068号



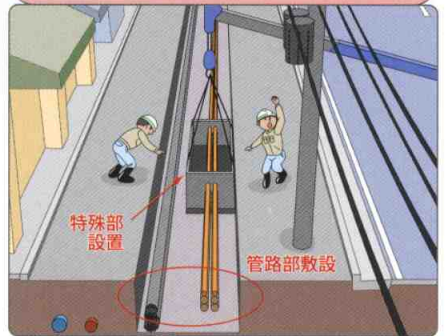
# 電線共同溝工事の流れ



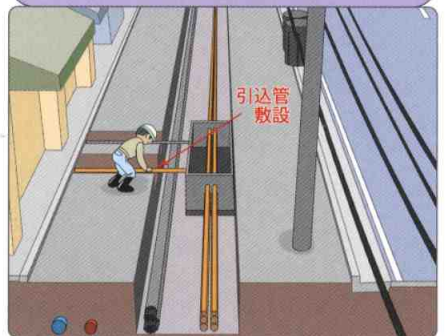
① 電線共同溝の支障となるガス・水道などの移設



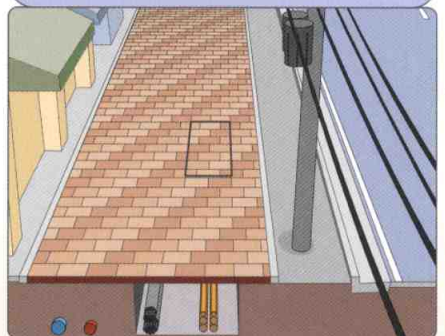
② 電線共同溝の工事



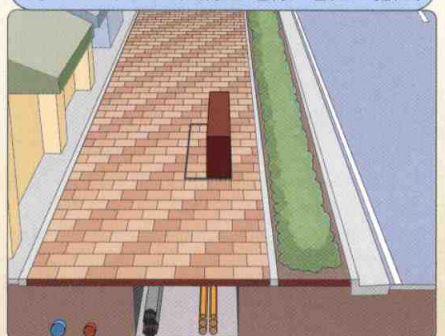
③ 引込管の工事



④ 歩道舗装工事



⑤ ケーブルの入線と電線・電柱の撤去





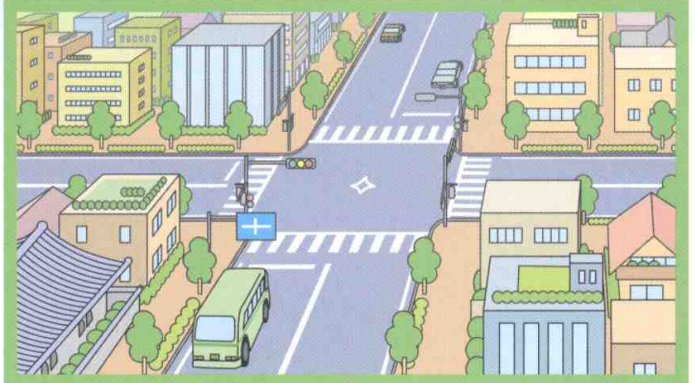
# 無電柱化の目的

## (1) 安全で快適な歩行空間の確保



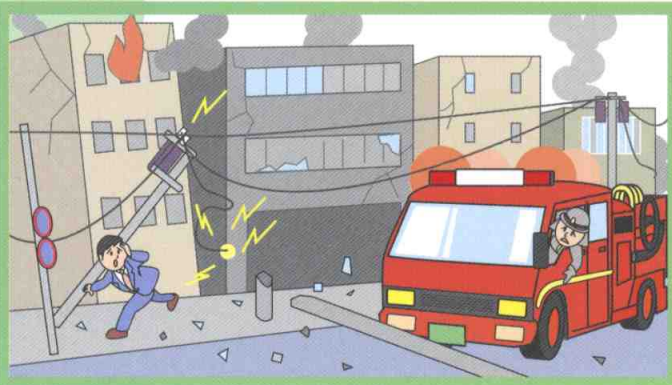
電柱や電線類が無くなると、道路の見通しが良くなり、信号機や道路標識が見やすくなるなど、交通の安全性が向上します。また、歩道が広く使えるため、歩行者、ベビーカー及び車椅子を利用される人には安全で利用しやすいユニバーサルデザインの歩行空間が形成されます。

## (2) 都市景観の向上



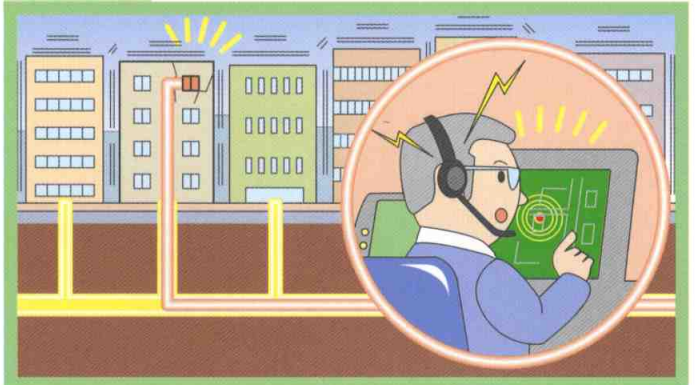
地上に張りめぐらされた電線類が道路の下等に収められるため、幹線街路や歴史的景観に配慮すべき地域において、美しい街並みが形成されます。

## (3) 都市災害の防止



台風や地震といった災害時に、電柱が倒れたり、電線類が垂れ下がるといった危険がなくなります。

## (4) 情報通信ネットワークの信頼性の向上



今後ますます発達していく高度情報化社会において、情報通信ネットワークは広がる一方ですが、無電柱化することにより、地震などの災害が発生した時の被害を軽減することができます。

## 無電柱化を進めるための課題

### ① 電線類地中化の整備費用が多額

電線類地中化（電線共同溝方式）には1km当たり約7億円（道路管理者5億円、電線管理者2億円）が必要です。

### ② 地上機器設置場所の確保

電線類を地中化することにより、電柱に共架されていた変圧器を地上に設置しなくてはなりません。地上機器（長さ120cm×幅50cm×高さ90cm）は電柱より大きなスペースが必要となり、設置場所の確保が大きな課題です。

### ③ 地下収容スペースの確保・調整

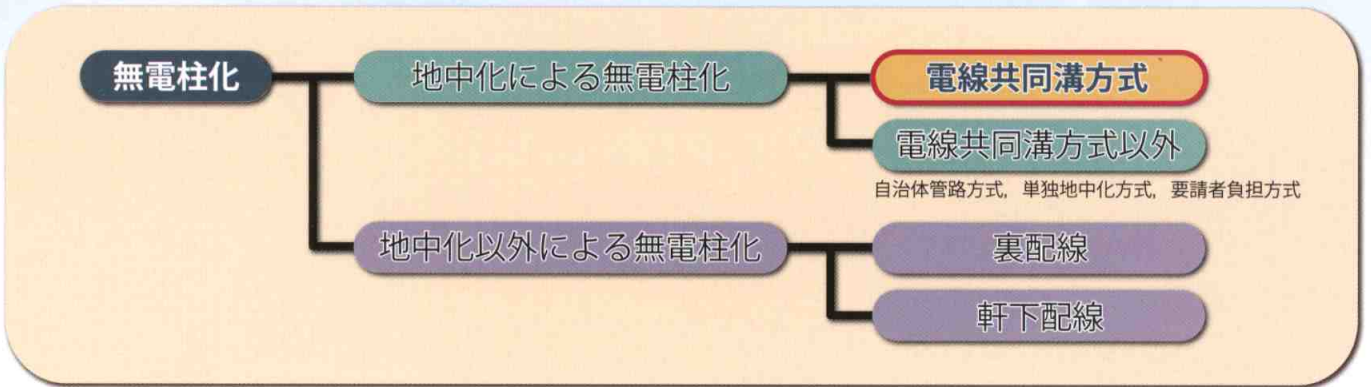
地下には、上下水道管、ガス管などが埋設されており、新たに埋設する電線共同溝の収容スペースが必要であり、その確保と地下埋設企業者との調整に時間がかかります。





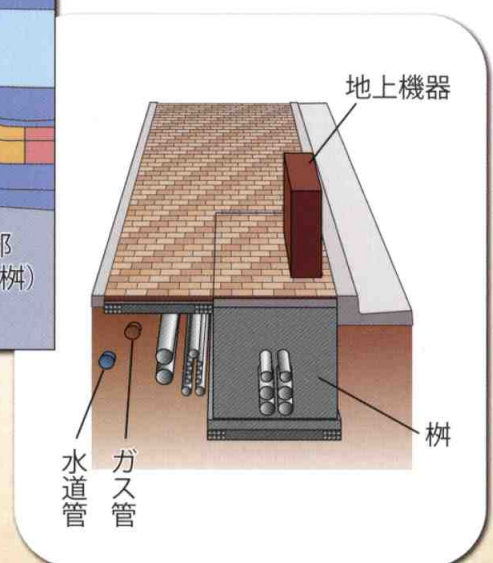
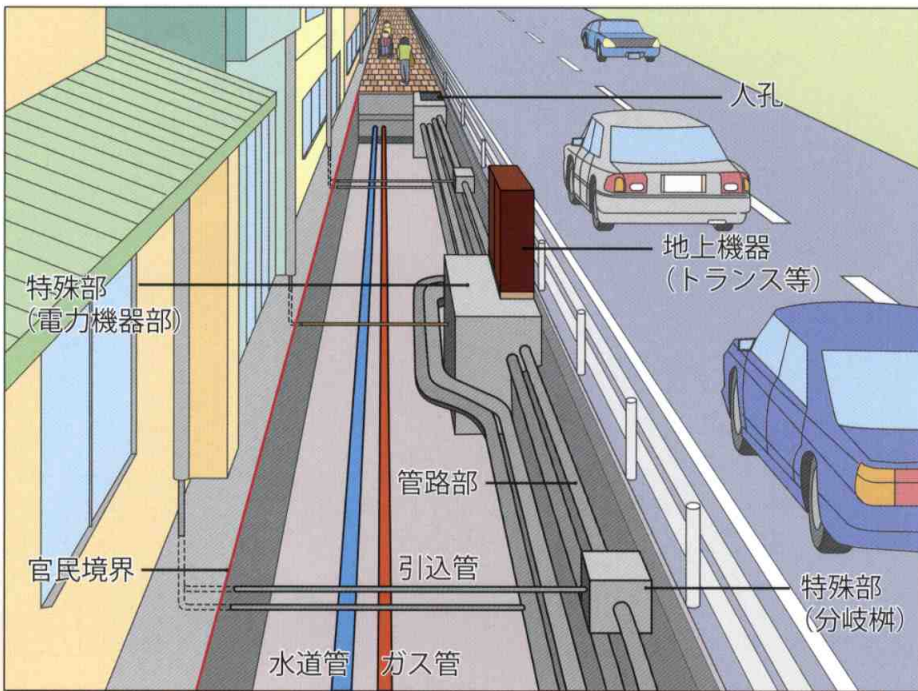
# 無電柱化の手法

京都市では、無電柱化の手法として、主に電線共同溝方式で整備を進めています。



# 電線共同溝のしくみ

電線共同溝とは、「電線共同溝の整備等に関する特別措置法」に基づき、地上の電柱や上空の電線を、地下の空間に收容するための施設で、無電柱化の手法のひとつです。



- 管路部：電力や通信用のケーブルを收容する管路
- 特殊部：宅地への供給ケーブルを接続したり分岐させる箇所
- 引込管：宅地への供給ケーブルを收容する管路
- 地上機器：電力の変圧器などを收容するボックス

地上機器周辺のイメージ



# 京都市域の無電柱化実績 (平成20年度末の管路延長)

計画名	実施期間	京都市	国土交通省(直轄国道)
第1期電線類地中化計画	S61~H2	10.6 km	9.5 km
第2期電線類地中化計画	H3~H6	7.6 km	
第3期電線類地中化計画	H7~H10	11.2 km	14.5 km
新電線類地中化計画(第4期)	H11~H15	13.7 km	
無電柱化推進計画(第5期)	H16~H20	10.0 km	16.0 km
計		53.1 km	40.0 km

